

解答

(1)under (2)purpose (3)3 (4)with (5)全文訳参照 (6)4 (7)2 (8)sitting (9)(A)my (B)sitting (10)3 (11)of (12)duty (13)allow (14)were hurt (15)1 (16)全文訳参照 (17)全文訳参照 (17)全文訳参照 (18)3,4 (19)悲しい知らせに対して同情の念を示すとき。(20字) (20)“I’m sorry”は自分に明らかに非があることを認めるときや相手に深い同情を示すときに使い、「ごめんなさい」は自分に非がなくとも(人間関係の円滑化のため)相手の謝罪を引き出すことを期待して使われる。(21)(A)1 (B)2 (C)1 (D)4

解説

(1)under (these, normal) circumstances「これらの、普通の」状況下で under what circumstances to use the expression “I’m sorry”...「どのような状況下で「ごめんなさい」という表現を使うか」
(2)by accident「偶然に」 on purpose「わざと」(= intentionally)
(3)wish と一緒に使う仮定法過去完了「もしも(あのときに)～だったらなあ」の文。I wish I hadn't done it.「私がそれをしていなかったらよかった」=「私はそれをしたことを後悔している」1.「私はあなたを押すことを望む」2.「私はあなたを押すことを望まない」3.「私はあなたを押したことを後悔している」4.「私はあなたを押さなかったことを後悔している」1・2は hope が使われており未来のことを述べているのでふさわしくない。4 は「すべきだったのにしなかったことを後悔する」という逆の意味である。

wish と仮定法

wish は仮定法過去や仮定法過去完了の if 節内の形と一緒に用いる。

wish + S + 過去形「(今)～であればなあ(仮定法過去)」

wish + S + 過去完了形「(過去)～だったらなあ(仮定法過去完了)」

【例文】

I wish I had time.「(今)時間があればなあ」

I wish I had had time.「(あのとき)時間があつたらなあ」

(4)have something[nothing] to do with A「A と関係がある[ない]」 have nothing to do with an apology「謝罪と関係がない」
(5)The following situation「次の場合、以下の状況」 illustrate「挿絵を入れる、説明する」
(6)occupy「占領する・占める」= take
(7)vacant「空の」= empty
(8)the person は現在席に座っている状態(能動)なので現在分詞で修飾する。sit「座る」 seat「座らせる」

自動詞と他動詞で形が似ているもの

lie「横になる」 lay「(~を)横たえる」 rise「のぼる」 raise「(~を)上げる」 sit「座る」 seat「(~を)座らせる」

(9)Do you mind if S ~?「S が～すると気にしますか?、～してもいいですか?」= Do you mind S's ~ing? Do you mind my sitting here?「私がここに座ることを気にしますか?」
(10)Do(Would) you mind ~?でたずねられた場合、相手の行為を承諾するときは否定形 No「気にしません」で答える。Not at all「ぜんぜん～ない」1、2 は直接的な依頼表現(please を用いた命令文など)を受けるときに使う。
(11)deprive A of B「A から B を奪う」 分離の of。deprive X of the use of the seat「X から座席の使用を奪う」

分離の of

of には分離「～から...を離す」の用法があり、以下の熟語において典型的に現れる。

clear A of B「A から B を取り除く」、cure A of B「A の B(病気)を治す」、deprive A of B「A から B を奪う」、ease A of B「B を取り除いて A を楽にする」、relieve A of B「B を取り除いて A を安心させる」、rob A of B「A から B を(不法に)奪う」

They robbed him of all the money he had. 彼らは、彼の持っているお金をすべて奪った。

Cancer deprived the man of his voice. がんがその男から声を奪った。

You eased me of my suffering. 君は僕の悩みを取り除いてくれた。

(12)この right は「権利」の意味。よって、反意語は duty「義務」である。その他 right の反意語としては「右」に対する left「左」、 「正しい」に対する wrong「間違っている」がある。
(13)let + 目的格 + 動詞の原形「自由に～に...させておく」(放任・許可) allow+目的格+to 不定詞「～に...することを許す」
(14)hurt「傷つける、怪我をさせる」 よって「あなたが怪我を負われる」は you were hurt である。
(15)sue「訴える」 if he were sued later on.「もしも彼が後で訴えられたとしたら」 accuse「訴える」

- であるから 1. accused が正解。2. apologized「謝罪される」 3. injured「けがする」 4. killed「殺される」
- (16) it は「I'm sorry と言うこと」を指す。would「～だろう」 indicate「...を指し示す、ほのめかす」 one's responsibility for ~ing「...の～したことに対する責任」 cause an accident「事故を起こす」
- (17) the Japanese「日本人」 be quick to 不定詞「すぐ～する」 apologize「謝罪する」 expect A to 不定詞「A が～するだろうと期待する」 they expect their apology to be returned「彼ら(日本人)は謝罪が返されるだろうと期待する」
- (18) 1. in the same situation as “I'm sorry”「I'm sorry と同じ状況で」 第 4 段落以降の例より I'm sorry と Excuse me の用法は異なるので不適。 2. only if they feel...「...と感ずるときだけ」 they are in the wrong「彼らは誤っている」 第 3 段落より相手の同情を示す I'm sorry があるので不適。 3. be likely to「...しがちである」 whether they have done something wrong or fault「彼らが何か悪いことや誤りをなそうがなすまいが」 第 7 段落に一致。 4. for knocking over a glass of water「コップの水をひっくり返したために」 第 6 段落及びアメリカ人が謝るのは自分に非があるのを認めるときであることから適する。
- (19) 本文第 3 段落および第 7 段落を参照。ポイントは、to show sympathy「同情を示すこと」である。
- (20) アメリカ人にとって I'm sorry は excuse me と異なり、自分が悪いことをしたと感じたときに使うことが第 1 段落で述べられている。また、それだけではなく、I'm sorry は深い同情を示すときにも使われることが第 2 段落で述べられ、その後具体的に例を挙げて説明されている。一方で日本人の「ごめんなさい」については最後の段落で、たとえ自分に非がなくても使われるということが説明されている。それは because they expect their apology to be returned 「彼らは謝罪が返されるだろうと期待するから」、つまり謝罪によって人間関係を円滑にするためである。
- (21) (A) circumstance 「事情、状況」
 (B) apologize 「わびる、あやまる」
 (C) indicate 「指し示す」
 (D) responsibility 「責任」

全文訳

いつ、どのような状況の下で「I'm sorry」と「excuse me」という表現を使うのかということを知ることは重要である。

もっとも一般的な用法は自分が悪かったことを示すことである。偶然にだれかを押ししてしまったと仮定しよう。すぐに「I'm sorry」か「excuse me」と言うだろう。これは人を押すことが悪いことだと認めることを示している。「I'm sorry」は、「私はそれをしなければよかった。」を意味する。「I'm sorry」はまた、誰かが病気になったり事故でケガをしたりといった悲しいニュースに同情を示すために使用される。それは謝罪と関係ない。

(5) 以下の状況は「I'm sorry」と「excuse me」がどのように使用されるのかを具体的に示すだろう。X はレストランに入るが、空いているテーブルがまったくない。あるテーブルには 3 脚のいすがあがるが、1 つだけが使われている。レストランにはその 2 つ以外に席はない。そこで X はそのテーブルのところにいき、座っている人に言う。「すみません(excuse me)。ここに座ってもよろしいでしょうか。」彼は何も間違っていることをしていないので、「ごめんなさい(I'm sorry)。ここに座ってもいいですか」とは言わないだろう。

座っていた人は「かまいませんよ」と答えて、X に席を譲るかもしれない。しかし彼は、「ごめんなさい(I'm sorry)。私は友人を待っているのです。」と返答するかもしれない。ここで「ごめんなさい(I'm sorry)」といったのは、彼は X が席に座ることを妨げてしまったからである(実際そうする権利もないのに。)したがって、彼は、X に対し、どうして自分は X を座らせないのかを説明する必要がある(ここでは「私は友人を待っている」)。

空席ができ、X は座る。ウェイターが 1 杯の水を X に持って来るが、X は偶然にそれをひっくり返してしまって「ごめんなさい(I'm sorry)」と謝る。

日本人は、共感を示すのに「excuse me」に対応する表現を使用しない。しかしながら、日本人はたとえ自分に非がなくても「I'm sorry」や「excuse me」と言う傾向にある。

アメリカ人は、「I'm sorry」を深刻な状況で使用するだろう。たとえば、友人が交通事故で重傷を負ったと聞くと、「ケガを負われて、お気の毒です(I'm sorry)。」「と言うだろう。これは深い共感を示す。もし、信号無視をして事故を引き起こしたならば、「信号無視してごめんなさい(I'm sorry)。」「とは返答しないであろう。これは彼が後で訴えられるとしたら、そのことば(I'm sorry)が彼を悩ますからである。(16)彼が「I'm sorry」と言わないのは、そのことばが、彼が事故を引き起こしたという責任を示すかもしれないからである。

(17) 日本人は謝ればそのお返しがあることを期待してすぐ謝る。(たとえば、「ごめんなさい」「いやいや、悪かったのは私のほうです。」。) アメリカ人は自分が悪いと感じる場合にだけ謝るのである。